

図表 3

消費者事故安全調査委員会が調査終了した事案

事案名	経過	事故の概要
ガス湯沸器による一酸化炭素中毒の事故	平成24年11月選定 平成26年1月評価書公表、 経済産業省に意見	東京都港区の3階建て住宅の1階において、風呂に給湯するためのガス湯沸器を使用したところ、不完全燃焼による一酸化炭素が発生した。翌日、居住者であるA氏（当時18歳、男性）の死亡が確認され、また、その兄であるB氏（当時24歳、男性）も重症を負った。
幼稚園で発生したプール事故	平成24年11月選定 平成25年10月经過報告書公表 平成26年6月報告書公表、 内閣府、文部科学省、厚生労働省に意見	神奈川県内の幼稚園のプール活動中に、当該幼稚園の3歳の男児がうつぶせに浮いているのが発見された。男児は担任教諭によってすぐにプールから引き上げられ、近接のクリニック（園医）に運ばれた後、そこから救急搬送されたがまもなく死亡が確認された。
家庭用ヒートポンプ給湯機（ ）から生じる運転音・振動により不眠等の健康症状が発生したとの申出事案 いわゆるエコキュート	平成24年11月選定 平成25年10月经過報告書公表 平成26年12月報告書公表、 消費者庁、公害等調整委員会、経済産業省、環境省に意見	群馬県に在住するA氏（50歳代男性）は、不眠、頭痛、めまい、吐き気等を訴えた。A氏の配偶者B氏（50歳代女性）も同じような症状を訴えた。これらの症状は、隣家の敷地内に設置されているヒートポンプ給湯機から生じる低周波音と思われる運転音・振動によるものであるとして、調査等の申出を行った。

事案名	経過	事故の概要
機械式立体駐車場事故	平成25年7月選定 平成26年7月報告書公表、 消費者庁、国土交通省に意見	機械式立体駐車場における利用者等の死亡・重傷事故は、平成19年度以降少なくとも26件（うち死亡事故は10件）発生している。調査委員会は、6件の事故について調査をすることとした。
エスカレーターからの 転落事故	平成24年11月選定 平成25年6月評価書公表 平成26年6月经過報告書公表 平成27年6月報告書公表、 消費者庁、国土交通省に意見	A氏（当時45歳、男性）は、東京都内のオフィスビル兼商業ビル2階の飲食店で飲食後、後ろ向きに歩行して、エスカレーターのハンドレールに臀部付近が接触し、ハンドレールの上に乗り上げ、吹き抜け部分から約9メートル下の1階フロアに転落し、その後、死亡した。

消費者事故安全調査委員会が調査中の案件

事案名	経過	事故の概要
エレベーターの戸開走行事故	平成24年11月選定 平成25年8月評価書公表 平成26年7月经過報告書公表	A氏(16歳、男性)は、東京都内のマンションのエレベーターに乗り、1階から12階まで移動した。A氏は、12階に到着し降りようとしたところ、扉が開いたままの状態で「かご」が上昇し始めたため、出入り口枠の上部と「かご」の床面との間に挟まれ、その後、死亡した。
子どもによる医薬品の誤飲事故	平成25年12月テーマ選定 平成26年12月经過報告書公表 とともに消費者庁、厚生労働省に意見 引き続き調査中	日本中毒情報センターが収集した情報によると、5歳以下の子どもによる医薬品の誤飲事故情報の件数は、平成18年は5415件だったが、平成24年には8388件(うち有症事例869件)となっており、増加傾向にある。調査委員会は、このような状況を踏まえて、子どもによる医薬品誤飲事故を調査することとした。
染毛による皮膚障害	平成26年10月テーマ選定	白髪染めやおしゃれ染めなど、染毛による皮膚障害の事例が消費者庁に寄せられている。その中には1か月以上の治療を必要とした事例が見られたため、調査委員会は再発防止のための調査を行うこととした。
ハンドル形電動車椅子を使用中の事故	平成26年11月テーマ選定	電動車椅子は、高齢者を中心に、移動手段として広く利用されている。安全対策の実施により事故の件数は減少しているが、引き続き、死亡・重傷事故が起こっている。調査委員会は事故の再発防止のため、高齢者が利用するものという視点も考えながら、更にできることはないかという観点で調査を行うこととした。